

© 2000 Bandai



SD
OPEN
E.S.F.
E.S.F.

BANDAI 2000 MADE IN JAPAN

BANDAI

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。



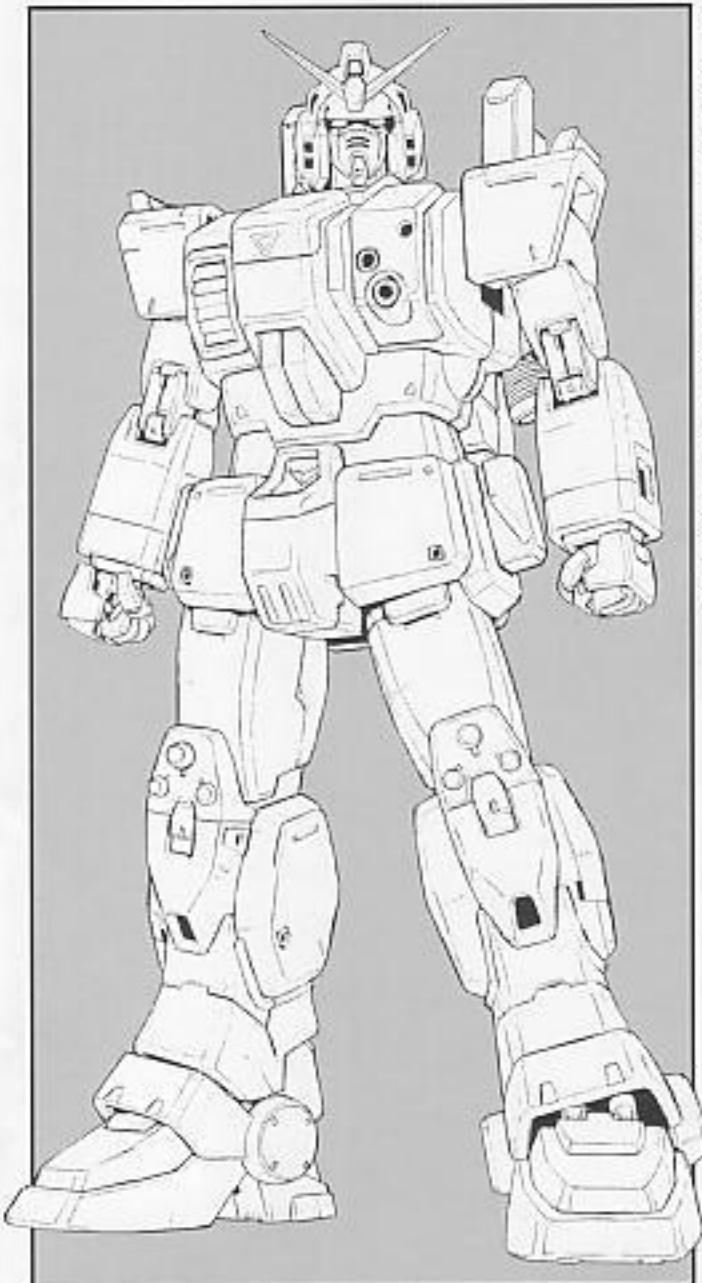
MOBILE SUIT
RX-79(G)

GUNDAM

E.F.S.F. FIRST PRODUCTION
MOBILE SUIT



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ
RX-79(G)「陸戦型ガンダム」
1/100 スケール マスターグレードモデル



RX-79(G) GUNDAM

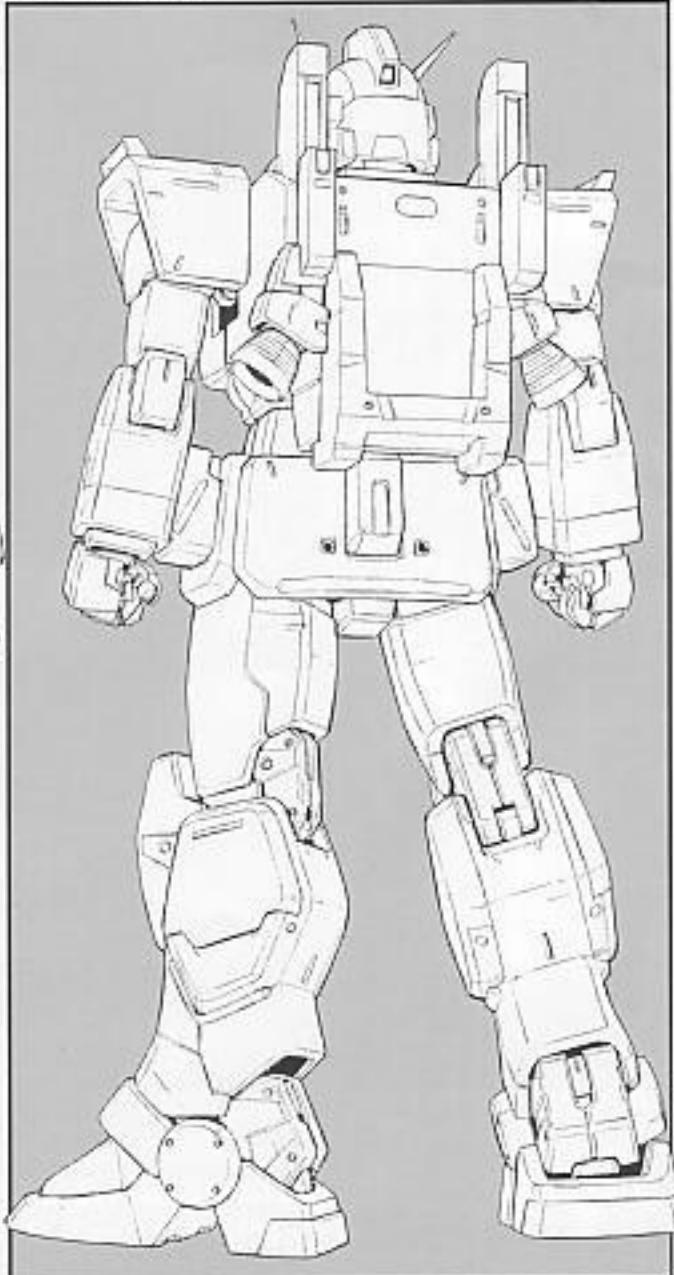
一年戦争勃発以前、連邦軍上層部はジオン公国が軍事的な対決を望んでいたとは考えていなかった。しかし、公国軍が新兵器を開発しているという情報入手していた一部の軍首脳は、その対抗措置として、新兵器の開発及び情報活動を含む複数のプロジェクトを立案した。それが「RX計画」である。この計画は、U.C.0076年以降、散発的に報告されていた公国軍による「巨大な人型の種族兵器」に対抗すべく、あらゆる方策を講じることを目的としていた。そして、個人や各コロニーの駐留軍などが入手した目撃談や状況証明などをもとに、歩行脚やマニピュレーターなどを持つとされるその兵器の実在を前提としたシミュレーションを行い、同等程度、あるいはそれ以上の能力を持つ兵器開発、または対抗措置を検討するための基礎研究が推進されることとなつたのである。実際には、RX計画が具体化する以前より、公国から亡命してきた技術者がもたらした情報に基づいて各種の計画が立案されていたとも言われているが、詳細は不明である。ともあれ、そういう事情のカムフラージュも含め、この計画には既存の軍需産業も巻きすることとなり、数年前より継続していた兵器の開発計画もいくつかが繰り込まれたものの、統括すべき連邦軍の方針が定まらず、戦略的にも戦術的にも確固とした

指針のないまま、散漫とさえ言えるような素案が山積していった。

一年戦争勃発によって趨勢が決して後、RX計画に連なるプロジェクトを統合する形で、本格的な高性能種と、その母艦との開発を並行して行う「V作戦」が立案、実行された。当初ジムの開発計画はRX-78型のスペックを目標とするものだったが、戦況を鑑みて決定された開発種別の大幅増により、一機当たりのコストを極力抑えた開発計画に変更された。それに基づき、いわばコストダウンされた機体がRX-GM-79ジムなのである。

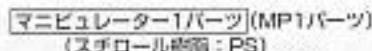
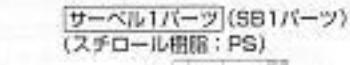
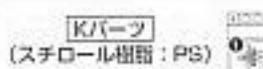
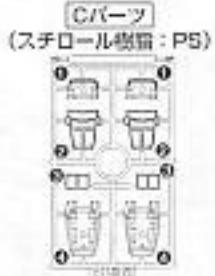
RX-79(G) いわゆる「陸戦型ガンダム」は、MS量産計画最初期において先行試作された内の一機である。この機体は、前年度から最強のMSを目指して開発が進められていたRX-78の実験データ回収以前に試験的に量産されたため、ある程度限定された環境でしか稼働できないRG GM-79 (G=Groundtype) GMをベースとしているものの、多様なオプションによりあらゆる戦闘に対応できるように設計されている。ことにG型は、当初から空間戦闘用の装備をオミットした設計が施されているため、機体は軽量化され、装甲材なども本格的な量産計画以前のマテリアルが使用されており、少なくとも「重力下」におけるスペックはRX-78に匹敵すると言われるほど高性能な機体となっている。

連邦軍の地上部隊においてオデッサ作戦以前にMS部隊が配属されたのは、公国軍による地球降下作戦によって侵入された地域の周辺領域が多く、特に各種資源鉱床や工業設備、または支配地域の拡大が懸念される結果などへ優先的に投入されている。



Technical illustration: Hajime Kusaki

パーツリスト



カラーシール.....1
マーキングシール.....1
ガンダムデカール.....1
ビス.....2
ナット.....2
ビス座付.....2

《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした人には実費にてお分けします。「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき下記までお申し込みください。代金は、部品代（1個40円×個数）+郵送料（120円）です。為替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

部品注文カード 76371-3000
1/100SCALE MGシリーズ
RX-79 (G) 陸戦型ガンダム

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む) (こわしたなくした)

部品の注文は「定額小為替」でお願いいたしました。
'00.05

RX-79(G) GUNDAM

Parts name of
RX-79(G) GUNDAM

Parts List

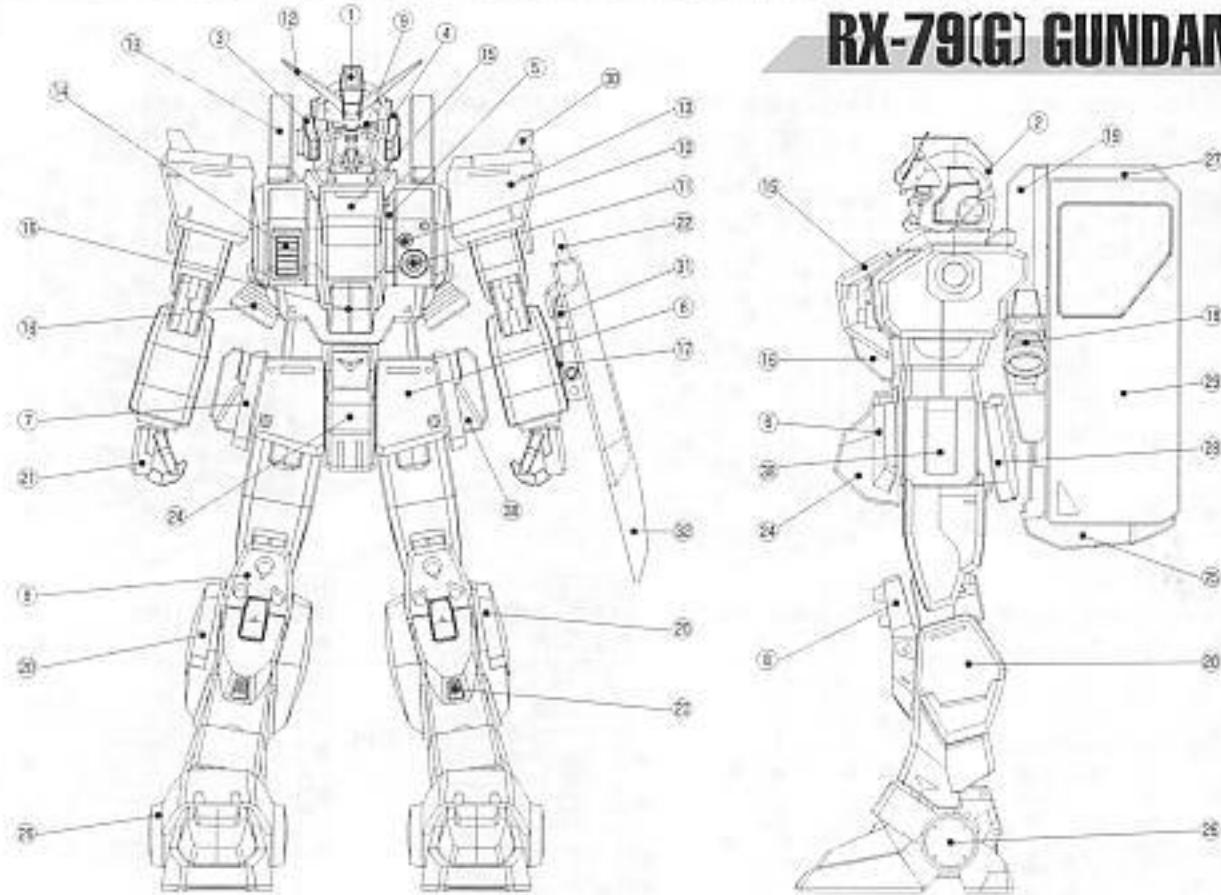
Body &
Cockpit

Head

Arm Unit

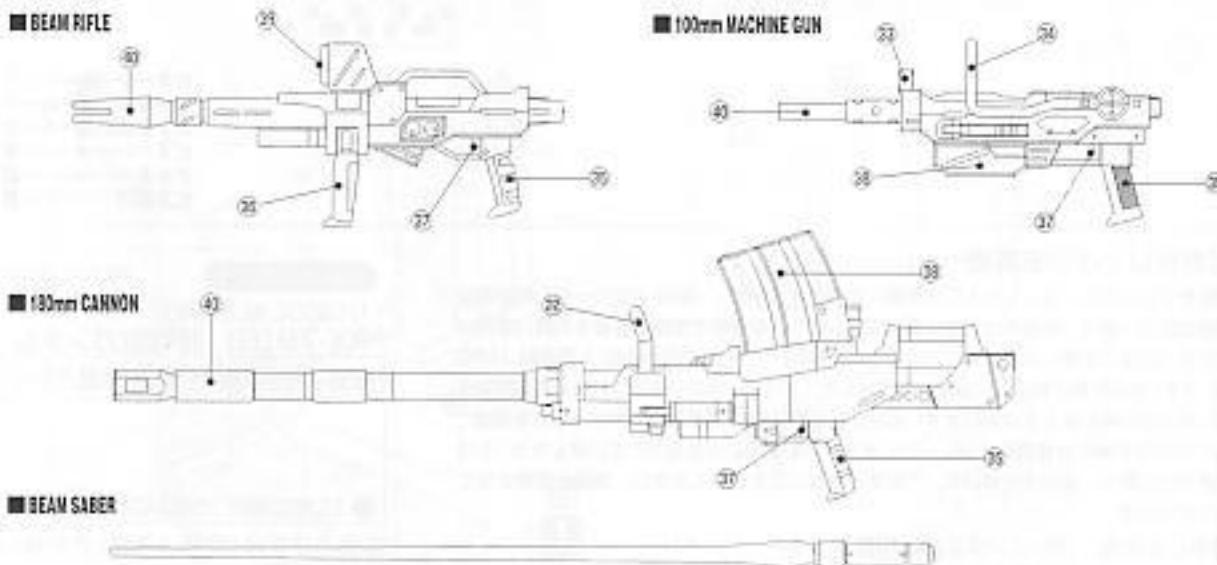
Leg &
Weapons

Final Assembly



- | | | | | |
|-------------------|---------------|--------------|----------------|----------------|
| ① メインカメラ | ⑨ デュアルセンサー | ⑩ マウントラッチ | ㉑ フォークリフト | ㉓ サイトスコープ |
| ② リアカメラ／センサー | ⑩ 胸部60mm／バルカン | ⑪ メインスラスター | ㉔ アンクルサポートユニット | ㉔ フォールディングストック |
| ③ サブセンサー | ⑫ 胸部マルチランチャー | ⑫ ライト | ㉕ ホールドアーム | ㉕ グリップ |
| ④ シュノーケルカメラ | ⑬ マルチフレードアンテナ | ㉖ サーベルラック | ㉖ リアアーマー | ㉖ フォアグリップ |
| ⑤ クレーンアーム | ㉗ ショルダーダーマー | ㉗ マニピュレーター | ㉗ コンテナ | ㉗ トリガー |
| ⑥ フロントアーマー | ㉘ ダクト／インテーク | ㉘ キャリングハンドル | ㉘ スリングバー | ㉘ マガジン |
| ⑦ サイドアーマー | ㉙ コクピットハッチ | ㉙ グランドセンサー | ㉙ ジョイント／ビポッド | ㉙ ナロウセンサー |
| ⑧ ニージョイントスパイクアーマー | ㉚ メンテナンスハッチ | ㉚ ベンチレートボックス | ㉚ シールドフェレル | ㉚ マズル |

注) いわゆる陸戦型ガンダムは、U.C.0079年10月時点で20数機が完成していた。この機体は、東南アジア方面軍機械化混成大隊(コジマ大隊)所属の12機の内、第08小隊に配備されたものである。



△ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は5歳以上です。(鉛、毒物がありますので、安全上15才未満には適しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を開封後は、頭を覆ったりしないでください。窒息するおそれがあります。
- 小さな子様のいる家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。
- 接着剤を使用する時は、接着剤の注意をよく読んでご使用ください。

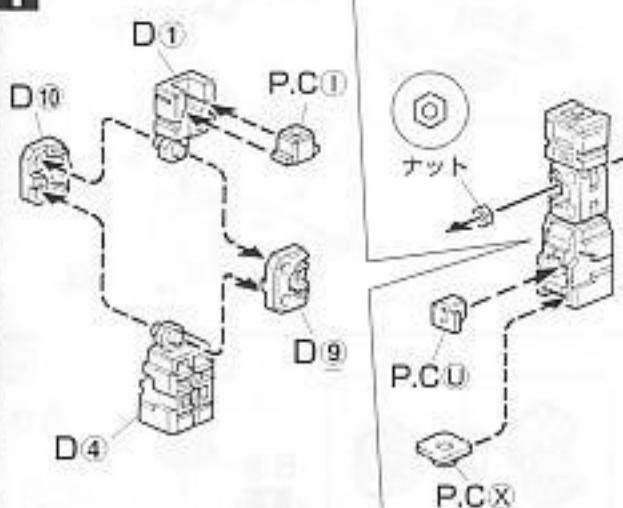
※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。●ビスの締めすぎには注意しましょう。

〈組み立てる時の注意〉

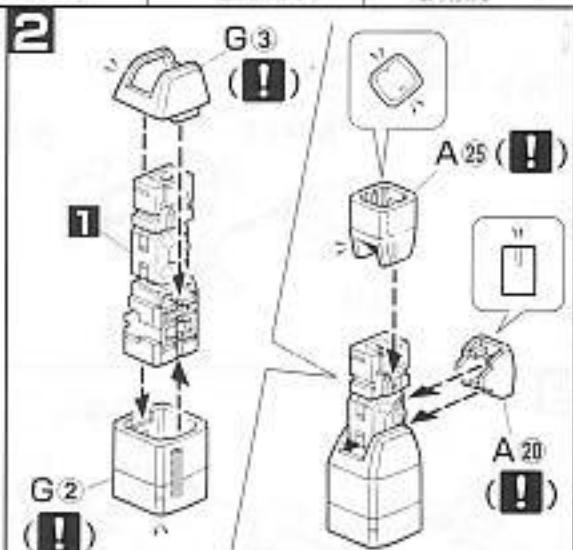
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の汚物、工具、溶剤、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やわらかさ、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



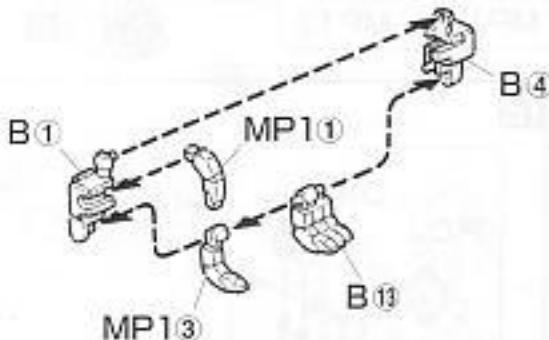
1



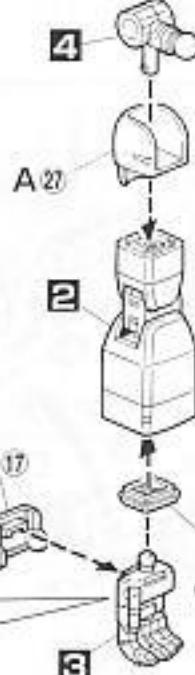
2



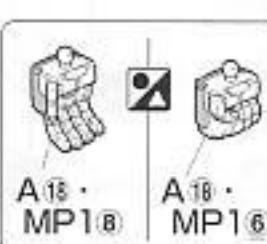
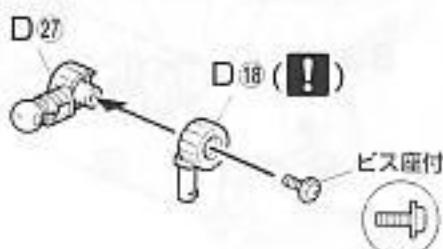
3

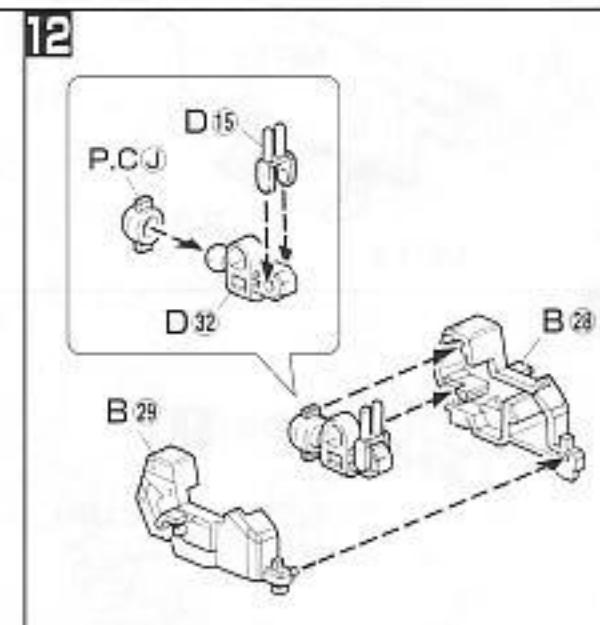
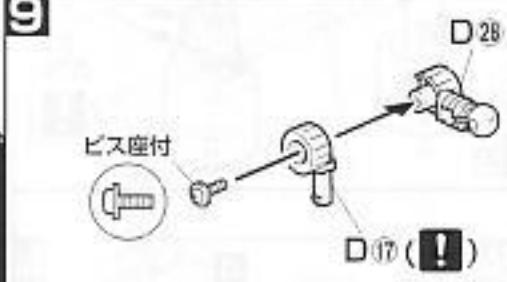
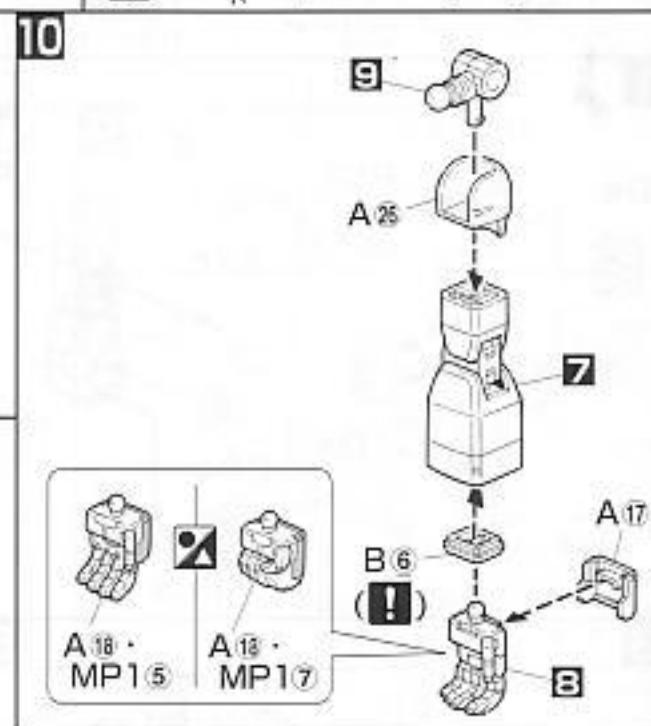
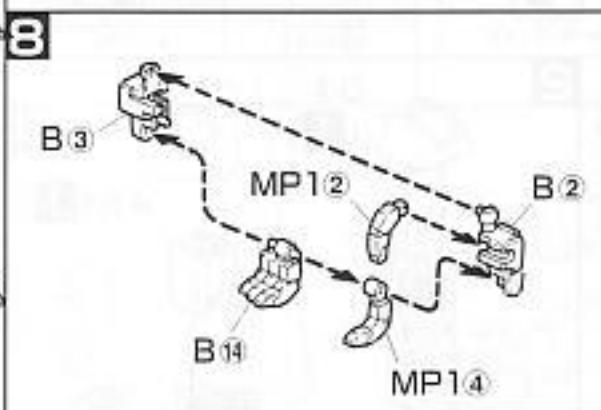
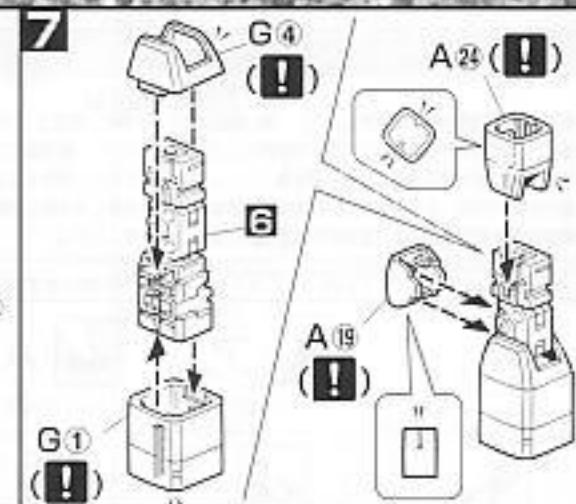
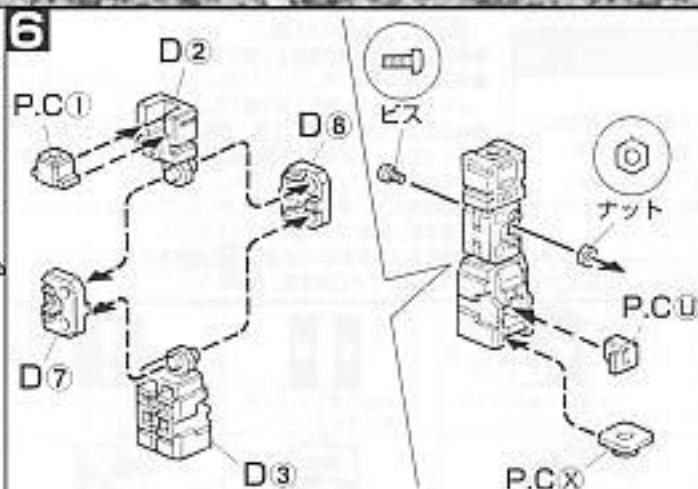


5



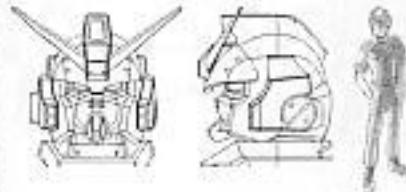
4





HEAD UNIT

RX-79(G)の頭部は、頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラを基本構成とするガンダム系MSの特徴を持つ。実際、流用されたパーツも多いが、内装デバイスの多くは新規に設計されている。



RX-79のメインコンピューターはコア・ファイターに搭載されていて、頭部ユニットは副次的なコ・プロセッサーフレームとして機能していたが、RX-79(G)のメインフレームは、頭部及びコクピット周辺に分散配置されている。これは、フルスペックの教育型コンピューターの重量が困難であったという事情にもよるが、実際には陸戦用に限定特化された機体には過剰な品質であり、稼働を安定させるためのデチューンさえ施されていたのである。それでもスーズ社製無段位アンテナや、マツム・ソニック社製の通信、音響システムなど、アビ系の純正品も採用されていて、前線の要請に応える形で通信能力や近接戦闘能力の強化なども計られている。頭部形状自体も、標準型、アンテナ装備型、バルカン装備型などのバリエーションが存在する。ただし、部品の交換や更新は損耗などの問題から思うに任せず、戦闘による損耗などには、RGM系のものと同様に定期的な点検と修理が必要となる。

COCKPIT

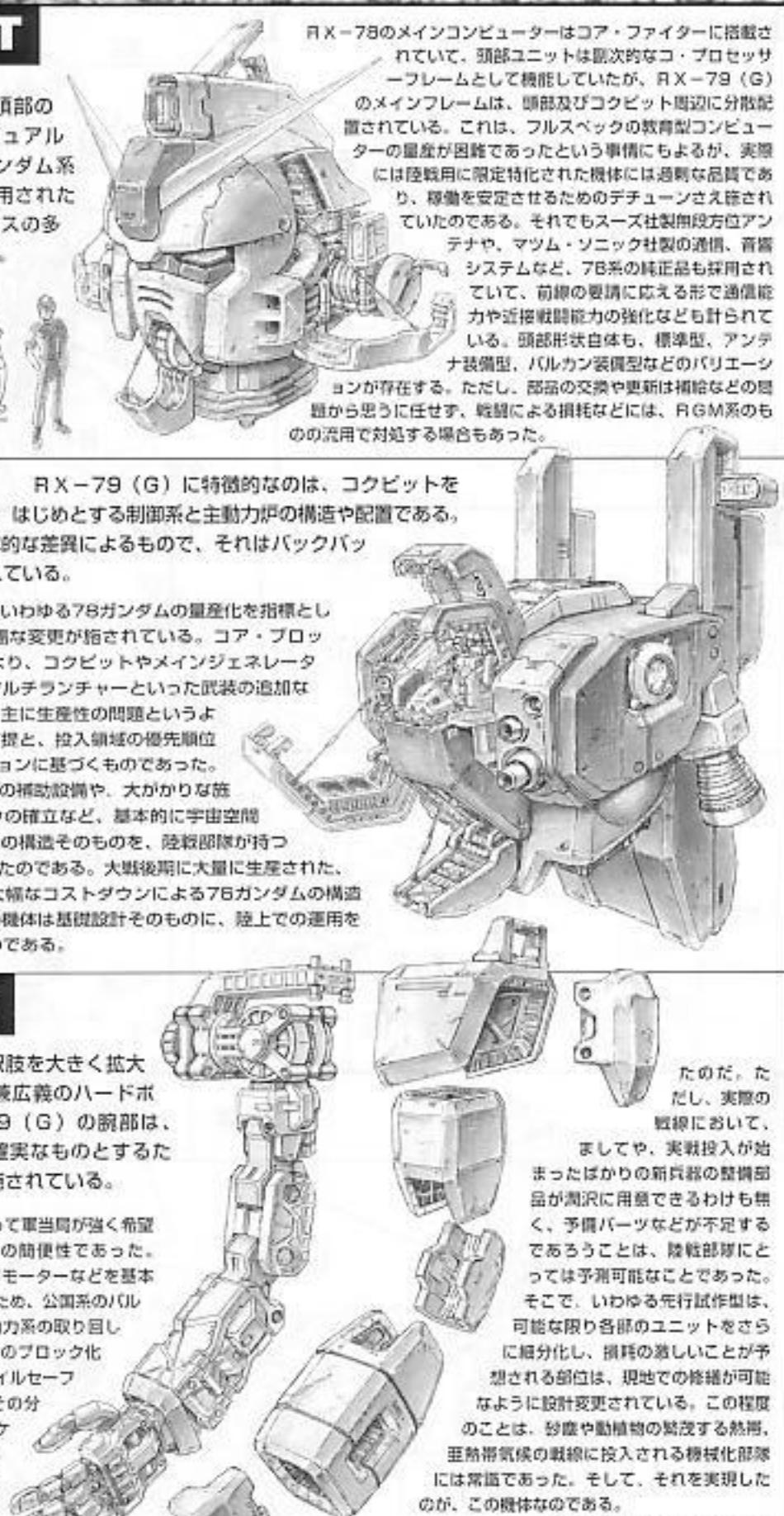
RX-79(G)に特徴的なのは、コクピットをはじめとする制御系と主動力炉の構造や配置である。これは運用される戦術の根本的な差異によるもので、それはバックパックの機能や構造などにも現れている。

RX-79(G) ガンダムは、いわゆる78ガンダムの量産化を指標としてはいたが、その構造には大幅な変更が施されている。コア・ブロック・システムのオミットは元より、コクピットやメインジェネレーターのスペック、配置の変更やマルチランチャーといった武装の追加など枚挙にいとまがない。これは主に生産性の問題というよりも、重力下での運用という前提と、投入領域の優先順位から導き出されたシミュレーションに基づくものであった。パイロットが機体に昇降する際の補助設備や、大がかりな施設を必要としない整備ノウハウの確立など、基本的に宇宙空間での運用を前提としていたMSの構造そのものを、陸戦部隊が持つ経験則に基づいて大幅に改修を施したのである。大戦後期に大量に生産された、いわゆる“無印のGM”が、大幅なコストダウンによる78ガンダムの構造を継承していたのに比べ、この機体は基礎設計そのものに、地上での運用を想定した改装が施されているのである。

ARM UNIT

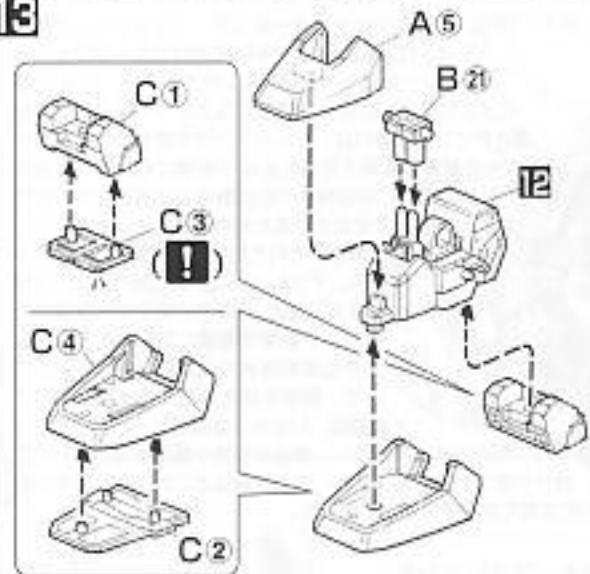
MSの腕部は、武装の選択肢を大きく拡大する汎用マニピュレーター兼広義のハードポイントでもある。RX-79(G)の腕部は、地球環境下における稼働を確実なものとするため、徹底的なシーリングが施されている。

RX-79(G)の開発に当たって軍当局が強く希望したのは、作動の確実性と整備の簡便性であった。元々連邦製のMSは、フィールドモーターなどを基本的なアクチュエーターとしていたため、公国系のバルスマーターに比較して制御系と動力系の取り扱いなどの確実性が高く、各ユニットのブロック化もあって、それらは運用上のフェイルセーフとして機能していた。ただし、その分ユニットそのものは構造的にデリケートなさがあり、損壊した部位は、基本的にそのユニットごと交換するのが前提とされてい

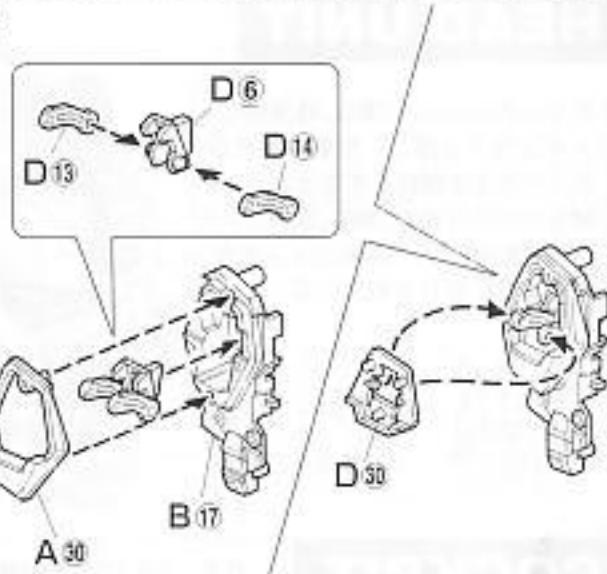


Mechanism illustration: HEE-CRAFT

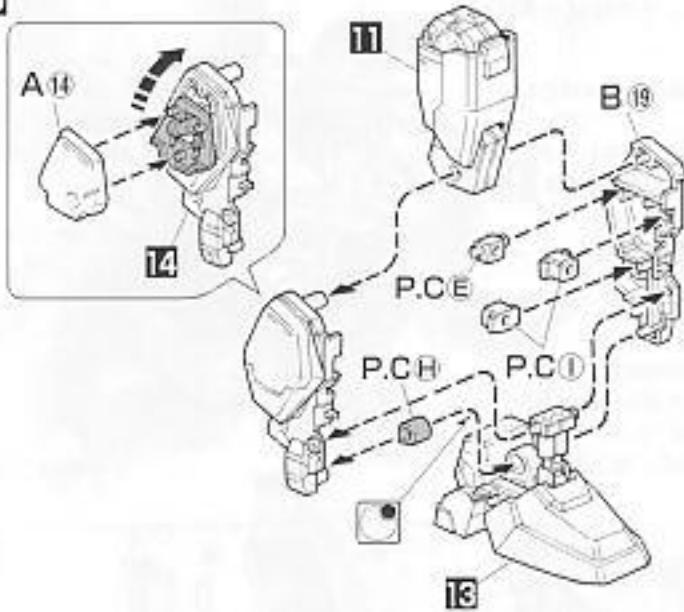
13



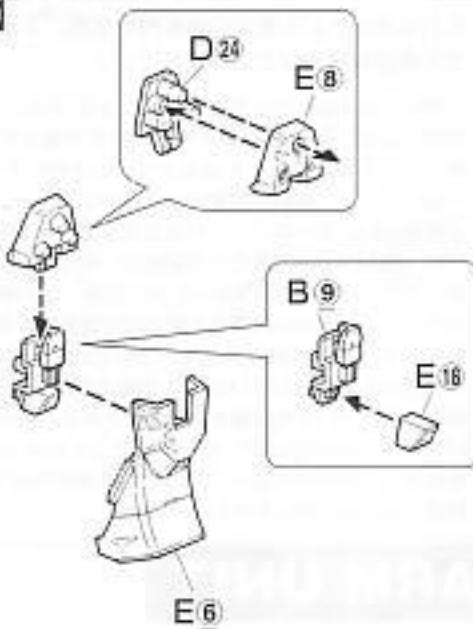
14



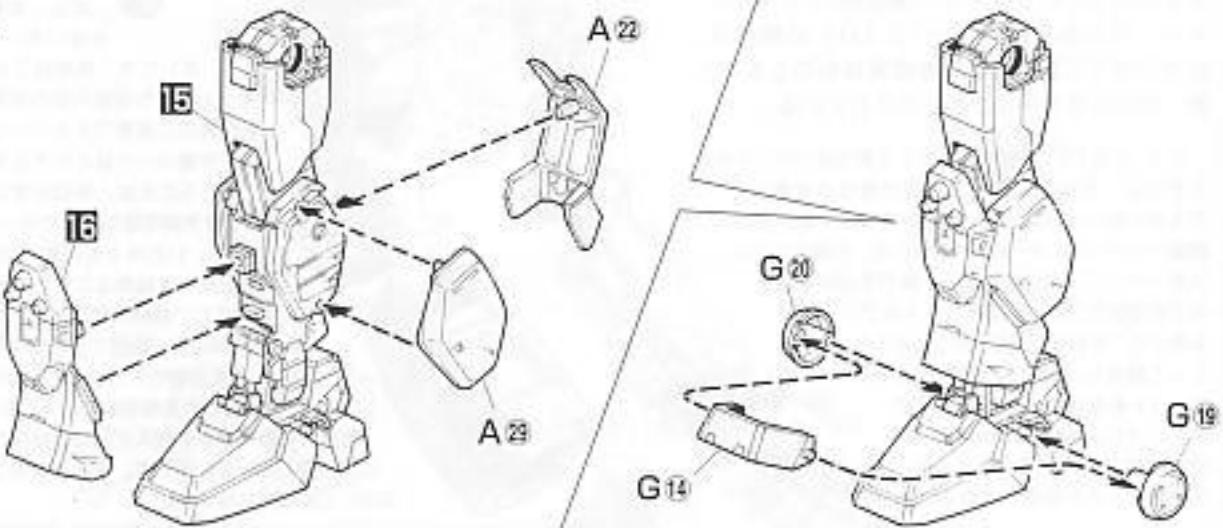
15



16



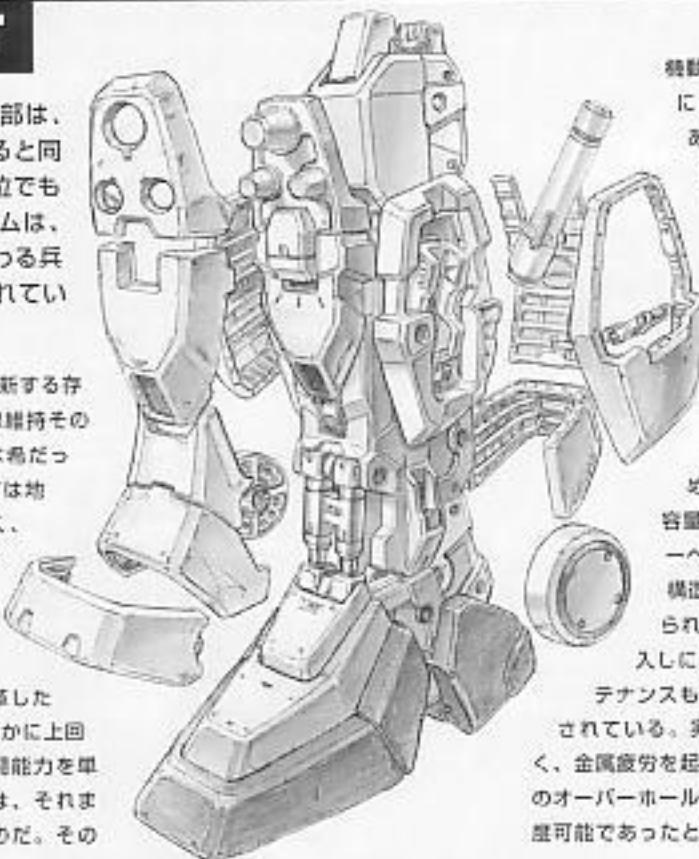
17



LEG UNIT

地上においてMSの脚部は、特に重要なユニットであると同時に、最も酷使される部位でもある。特に陸戦型ガンダムは、既存の軍用車両などに替わる兵器としての運用も想定されていたのである。

MSは既存の兵器体系を刷新する存在ではあったが、兵站や戦線維持そのものにまで適用されることはある。ことに、地上戦においては地勢や気候などの影響が大きく、既存の戦術に則らなければならぬ要素も依然として大きなものだったのである。ただし、戦闘兵器としてのMは戦場のありようを変革したのも確かで、戦闘車両をはるかに上回る走破性を持ち、自らの戦闘能力を単独で移動できるという兵器は、それではありえないものだったのである。その



機動力をもたらす脚部は、MSにとって重要なユニットであり、特にRX-79(G)の脚部には、地上用に特化された特徴が集約されている。膝部装甲には格闘鞋に対応したスパイクが追加され、原器となつたRX-78ではコ・ジェネレーターやプロペラントタンク、バーニアユニットなどが収められていた下脚部には、大容量コンデンサーやビーム・サーベルラックなどが収められ、構造そのものが高密度にまとめられている。加えて、脚底の混入しにくい構造が採用され、メンテナンスも少人数で可能なように配慮されている。実際、最も衝撃を受けやすく、金属疲労を起こしやすい足部接地面などのオーバーホールは、搭乗者単独でもある程度可能であったとされている。

WEAPONS

NF・GMG-Type.37/100mm
P.B.R-0079/A12 S-000011
NFHI・GMCA-type.09/180mm
X.B.Sa-G-03
RGM・S-Sh-WF/S-00109



100mm MACHINE GUN

連邦軍のMSの標準的な武装。威力の割りに小型であるため扱いやすく、特に地上に配備された部隊に多く支給されている。



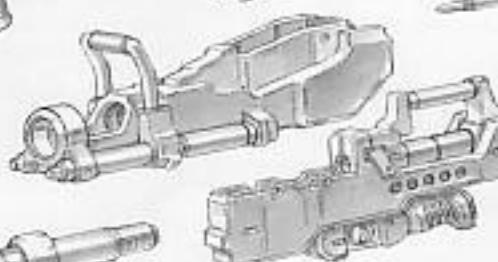
BEAM SABER

RX-78や通常型のGMとは異なり、脚部に装備されている。連邦軍MSの一般的な武装。



180mm CANNON

カートリッジ装填式の実体弾を使用する大型火器。基本的に対MS戦闘用の成形炸薬弾を使用するが、徹甲弾やナーブル弾なども射出可能。



BEAM RIFLE

実体弾を凌駕する威力をもつが、実用化直後であるため実戦部隊への配備は遅れており、定数を満たせず貴重な装備となっている。

SHIELD

腕部のラッチに装着される防護用装備だが、可動ジョイントでポジションを変えて近接戦闘用にも使用できる盾、砲架としても使える。



JUNGLE

第OBM S小隊は、東南アジア方面軍機械化混成大隊に所属している。この太平洋とインド洋に挟まれた地域は、地下資源が豊富であるばかりでなく、旧世纪末の重工業の盛んな場所とも隣接していたため戦略上の要衝となっていた。公国軍の電撃的侵攻によって占領、轄下された施設がさらなる支配地域の拡大に利用されていた連携車は、公国軍にこれ以上の開拓拠点を与えることは防がねばならなかったのである。宇宙世纪0079年10月、シロー・アマダ少尉は、負傷した前隊長の後任として第OBM S小隊に配属された。ここは地獄でも魔界の表舞台であり、公国軍の秘密工場の存在も感心され、歓迎は予想を許さない。そして……。



SORTIE

シローが第OBM S小隊に着任してから3度目の出撃命令が下った。シンクスを気に病む隊員たちをどうにかまとめあげ、任務は無事終了するかに思われたその時、公国軍の秘密兵器が姿を現した。その正体不明確はトラブルに見漏れられたらしく、シローはやり過ぎすることにするか、それが目前に迫ったことに恐怖した隊員が呟わす歎声てしまった！やむなく応戦するOB小隊は、辛くもそのモビルアーマー(MA)を撃退することに成功するものの、その正体は依然として謎のままだった。果たして……？



DESERT

公国軍が開発した新型MAの情報を入手したOB小隊は、日暮の直前に静かに砂漠を進む。その先の渓谷に公国軍の秘密兵器の射撃場があることを突き止めたシローたちは、訓練を兼ねてその場に回り、敵の出現に備えるが、待つだけの時間が過ぎて行った。そして数日後、MAアプサラスが姿を現した。アプサラスは、射撃場に仕掛けられた罠を見し、その動きを止める。その罠を逃さず、OB小隊は攻撃を仕掛けれる。ビーム・ライフルのまばゆい光芒の中、もううたたね砂漠からその威容をのぞかせる巨大MAアプサラス。そのビーム砲は渓谷をなぎ払い、シローたちを窮地に追い立てる!!

MARKING CONTAINER WEAPONS



▲機体各部をリアルに再現するナンバー表記、注意書き等のマーキングシールをセット。形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。



PAINTING

よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

- 腕・脚などの塗装色。
ホワイト(100%)+パープル少量+ブラック少量
- 足などの塗装色。
モンザレッド(100%)
- アンテナなどの塗装色。
イエロー(90%)+オレンジ(10%)
- 胸部などの塗装色。
ブルー(60%)+インディブルー(40%)+レッド少量
- 関節部、内部フレームなどの塗装色。
ニュートラルグレー(60%)+ミッドナイトブルー(40%)+ハーフグレー
- 頭部、バックパック・クレーンなどの塗装色。
ミッドナイトブルー(60%)+ブルー(40%)+ミディアムブルー少量
- 武器などの塗装色。
ミディアムグレー(60%)+ニュートラルグレー(30%)+ミッドナイトブルー(10%)
- アイカメラなどの塗装色。
シルバーの上に蛍光グリーン(100%)

FRONT VIEW



REAR VIEW

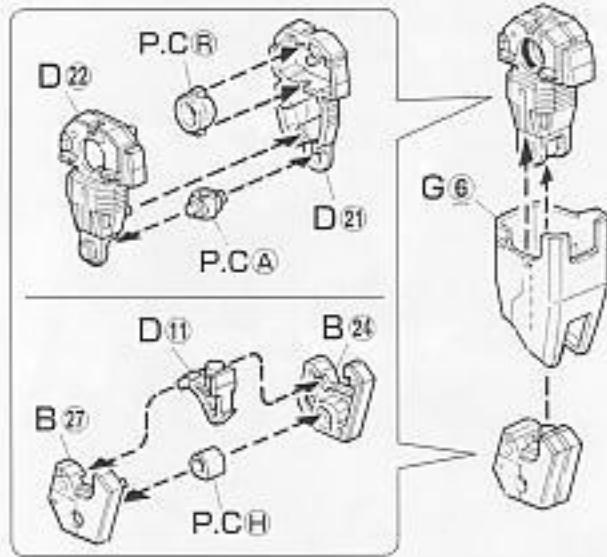


▲ 背部バックパックは、クレーンの可動によりコンテナの着脱が可能。

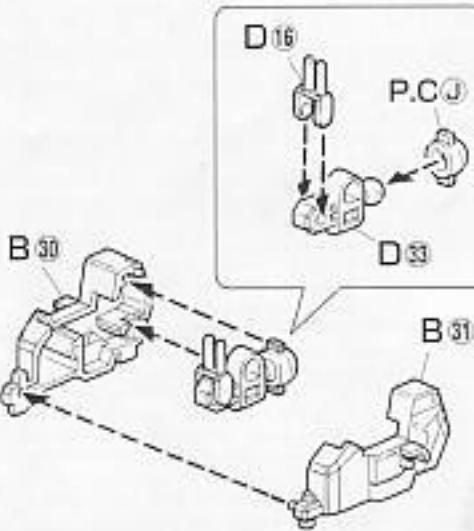


▲ 腕部、脚部の装甲は、脱着可能。内部フレーム、メカニックを精密に表現。脚部側面には、開閉式のサペルラックを再現。

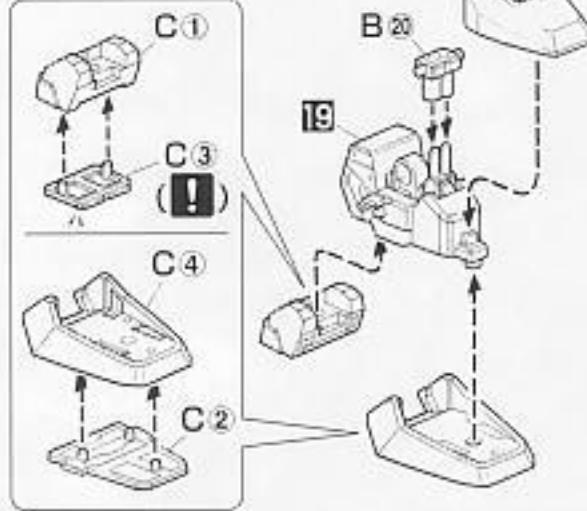
18



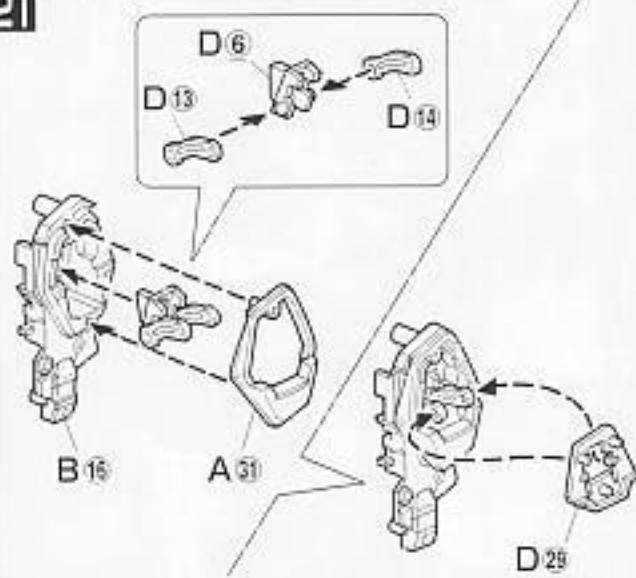
19



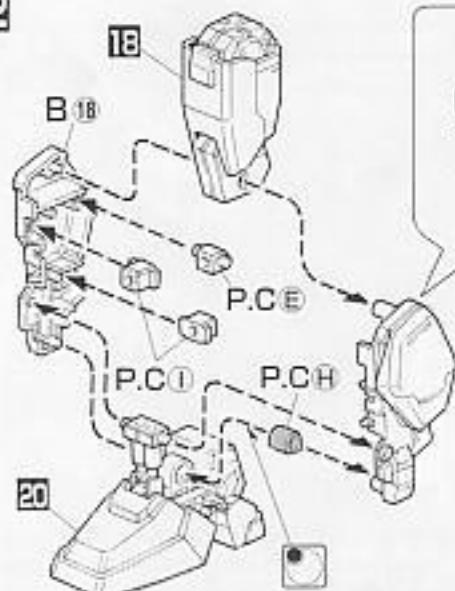
20



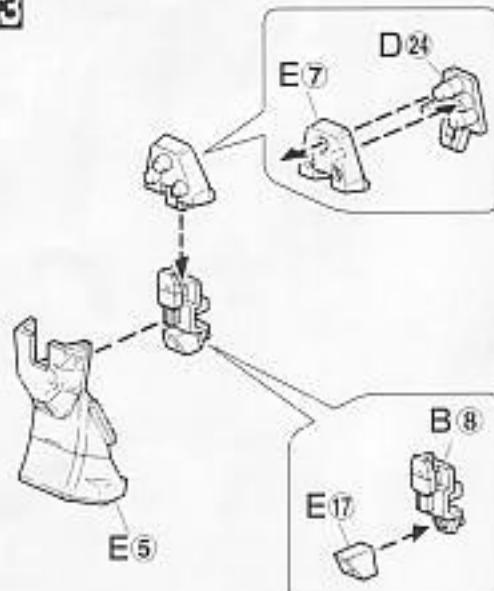
21



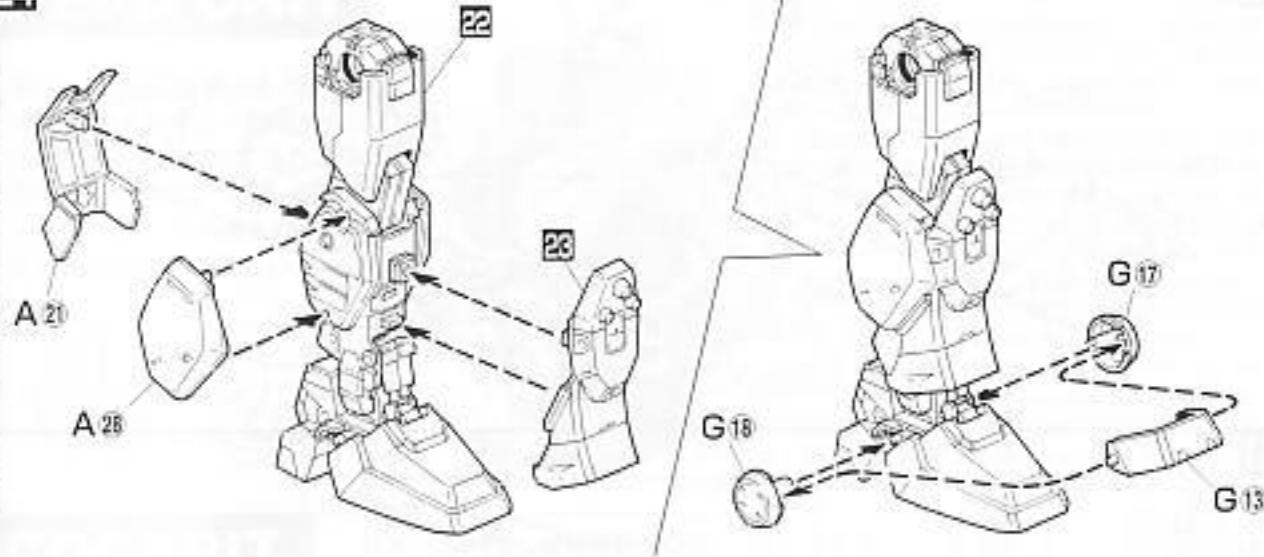
22



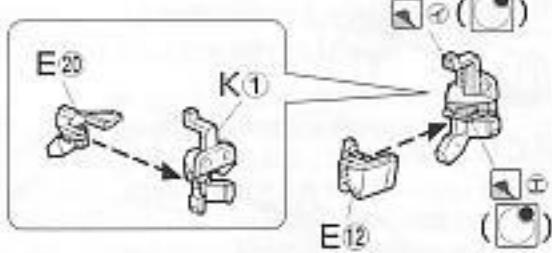
23



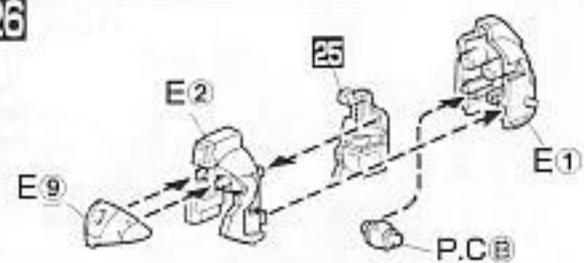
24



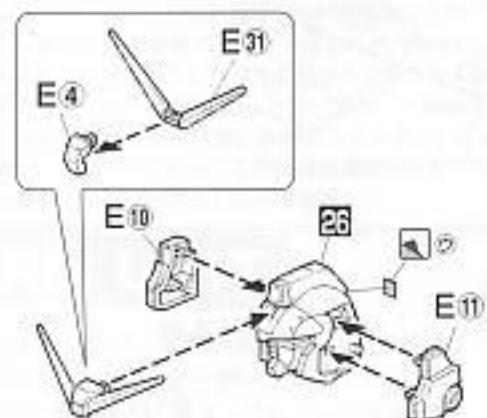
25



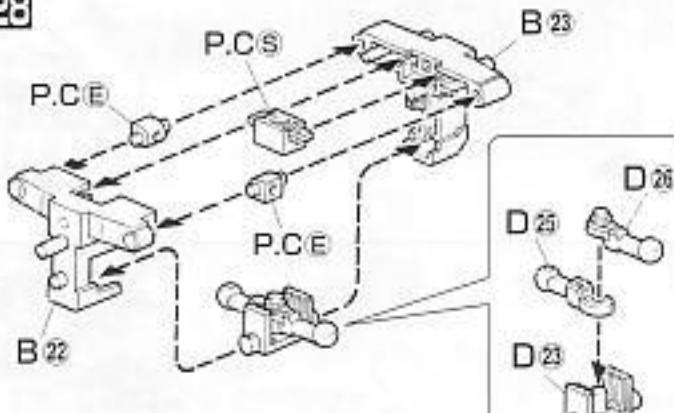
26



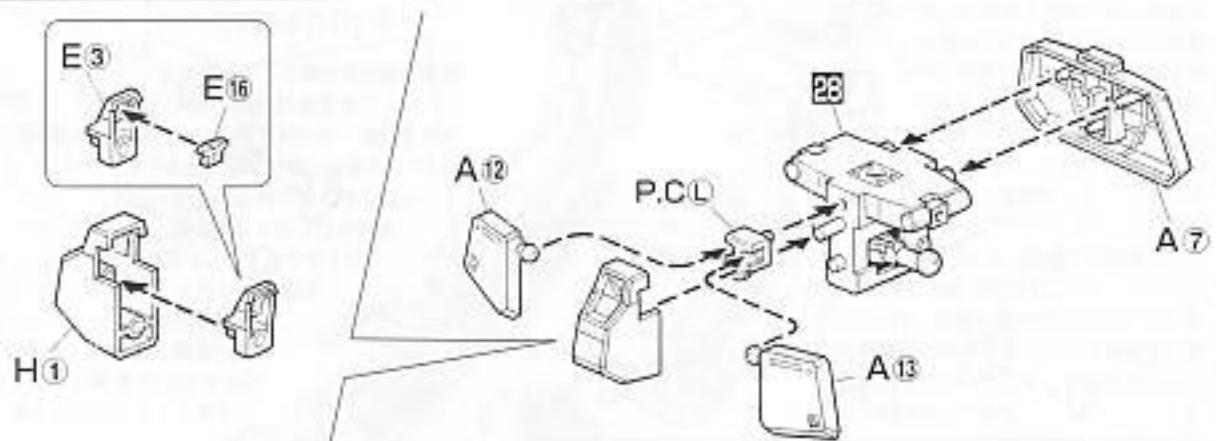
27



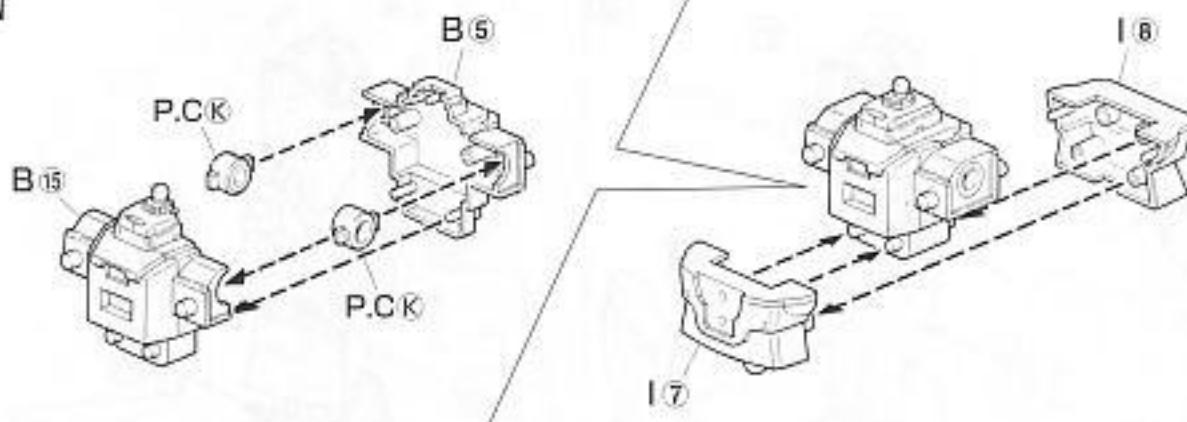
28



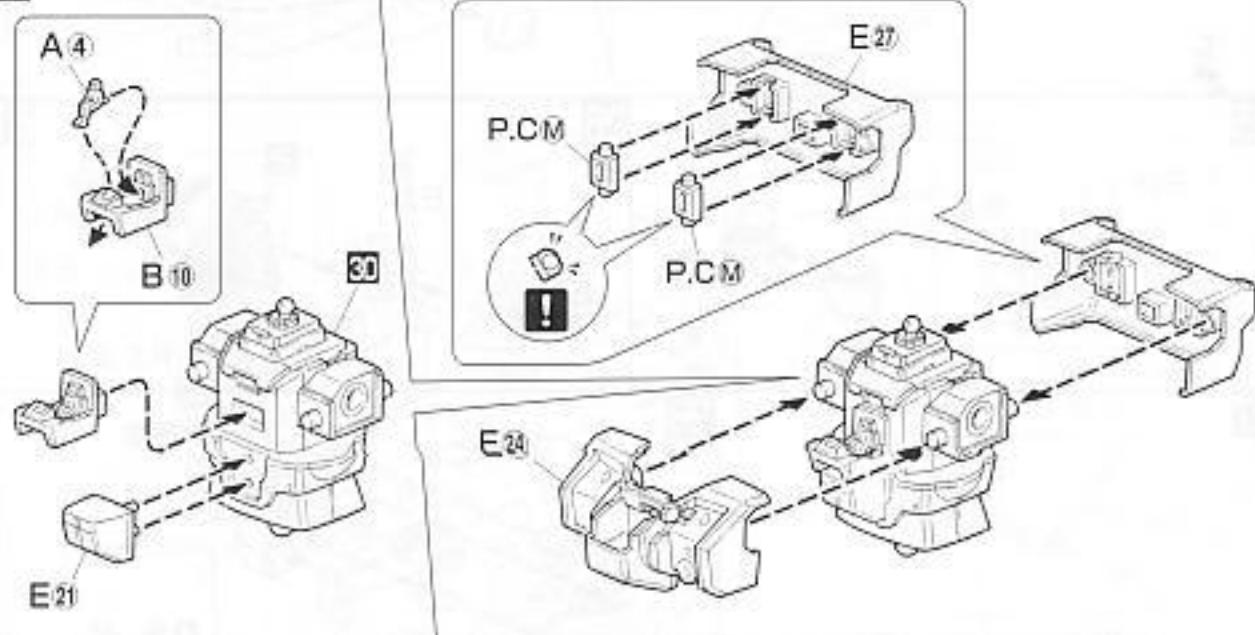
29



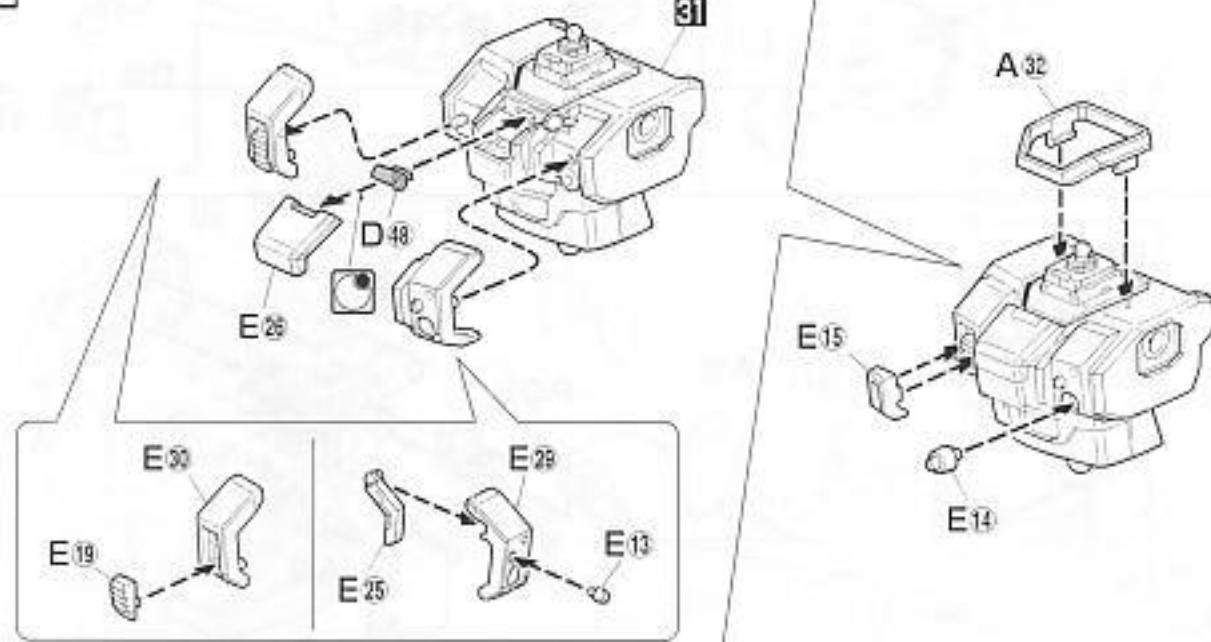
30



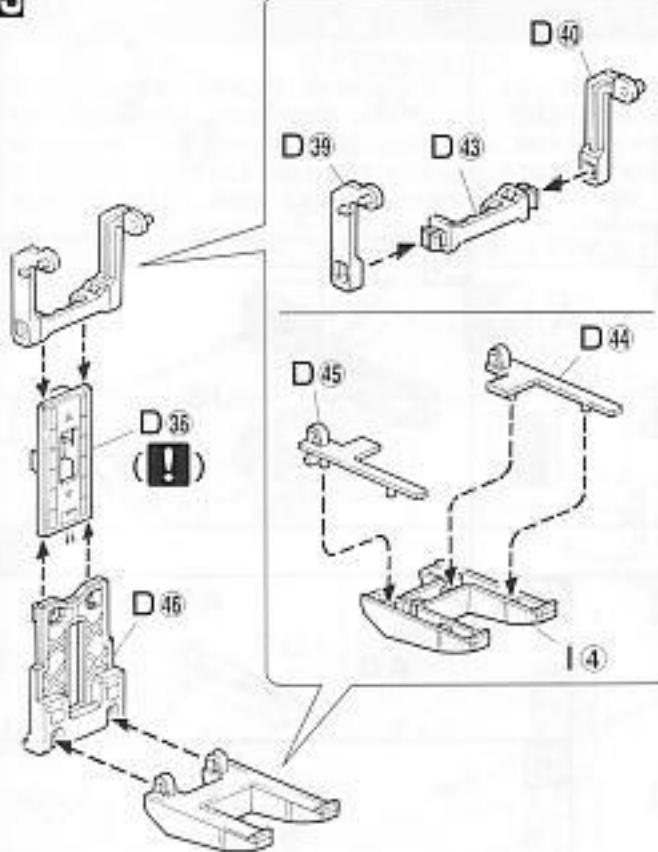
31



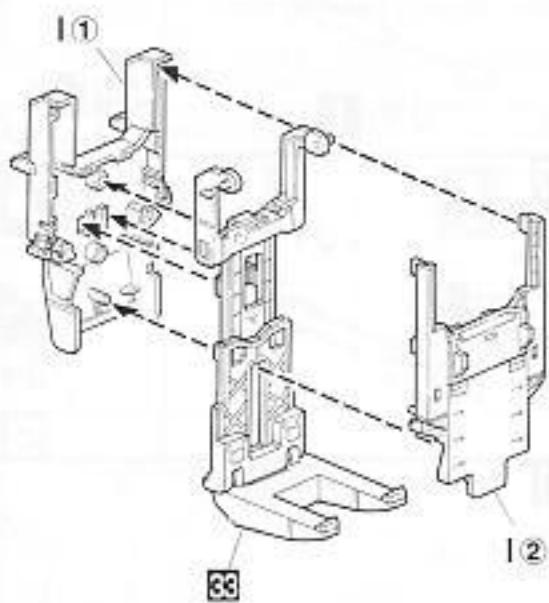
32



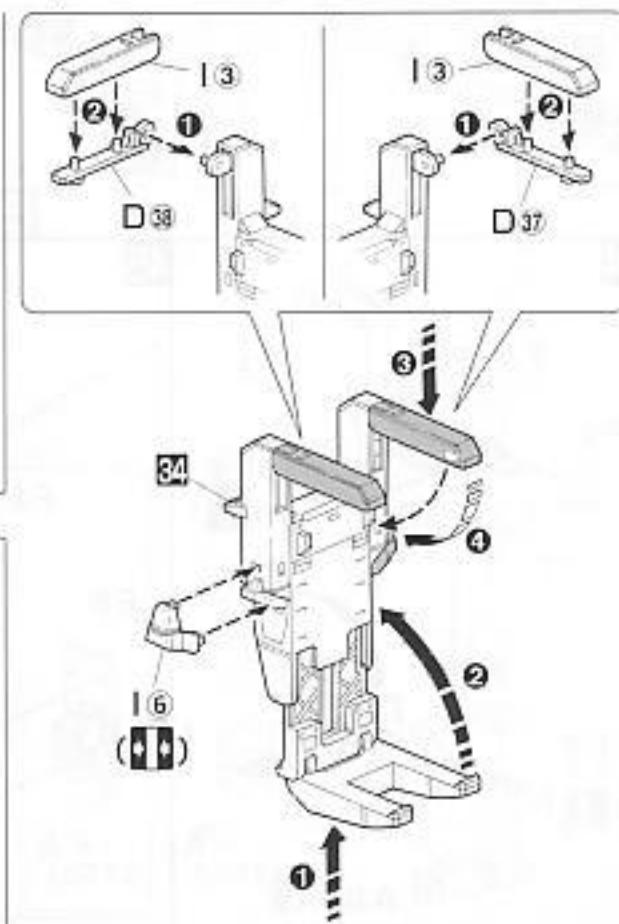
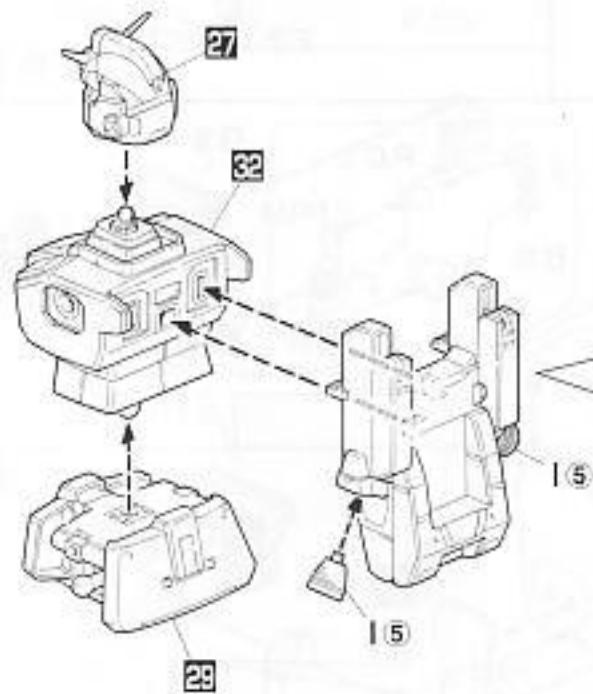
33

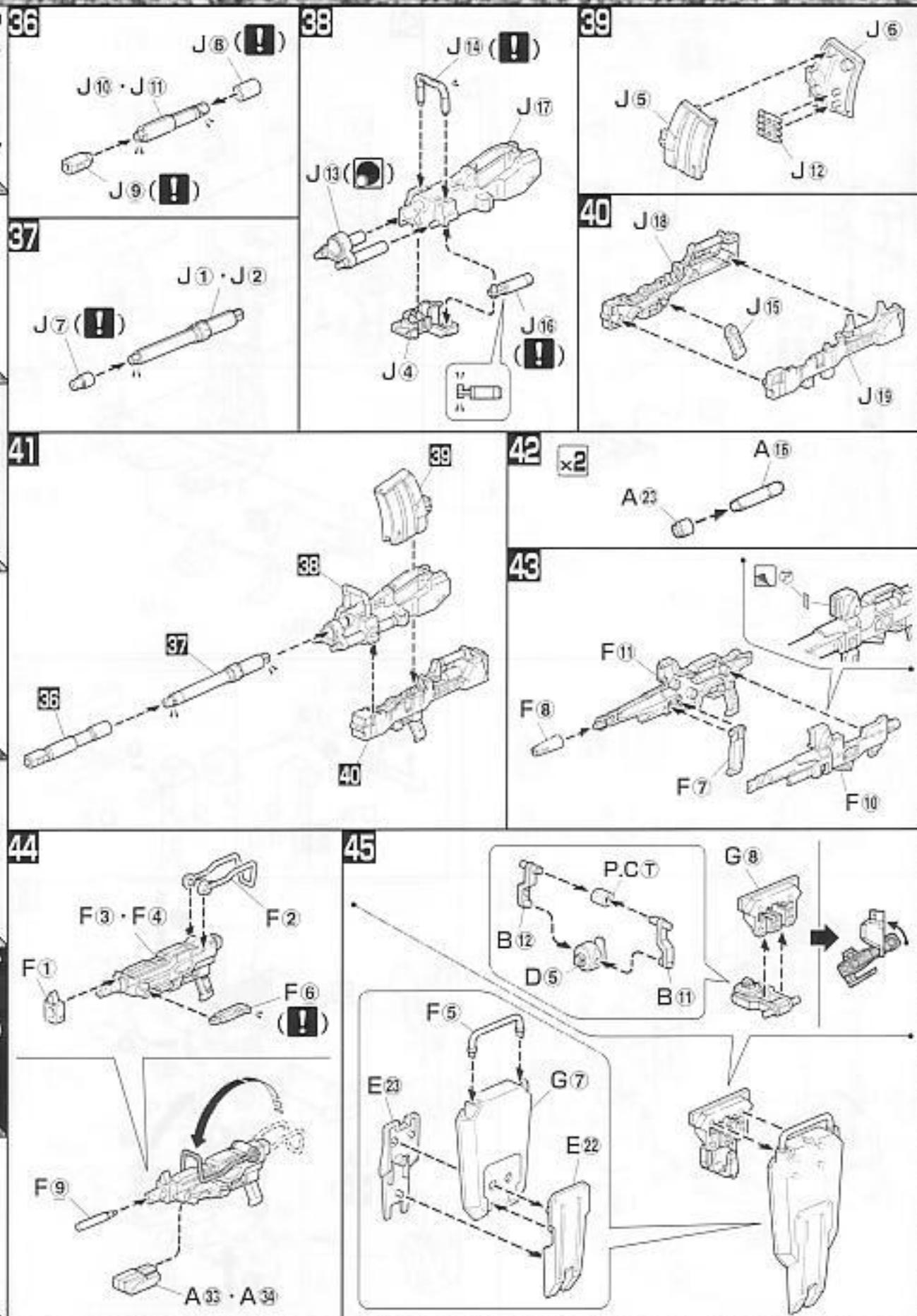


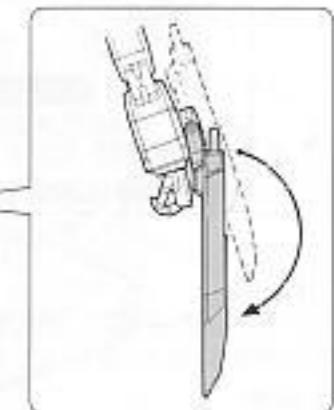
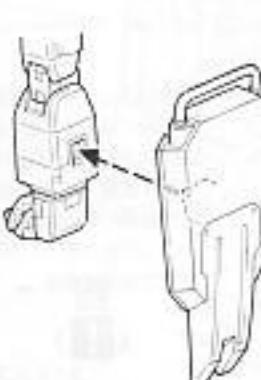
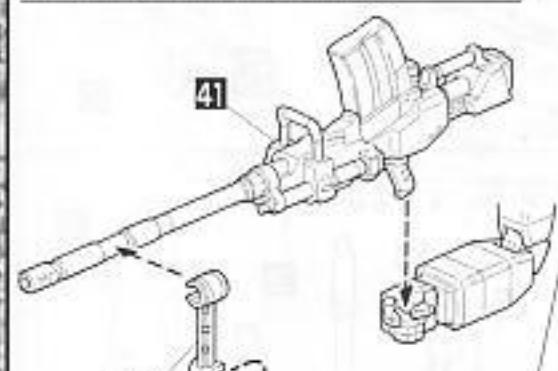
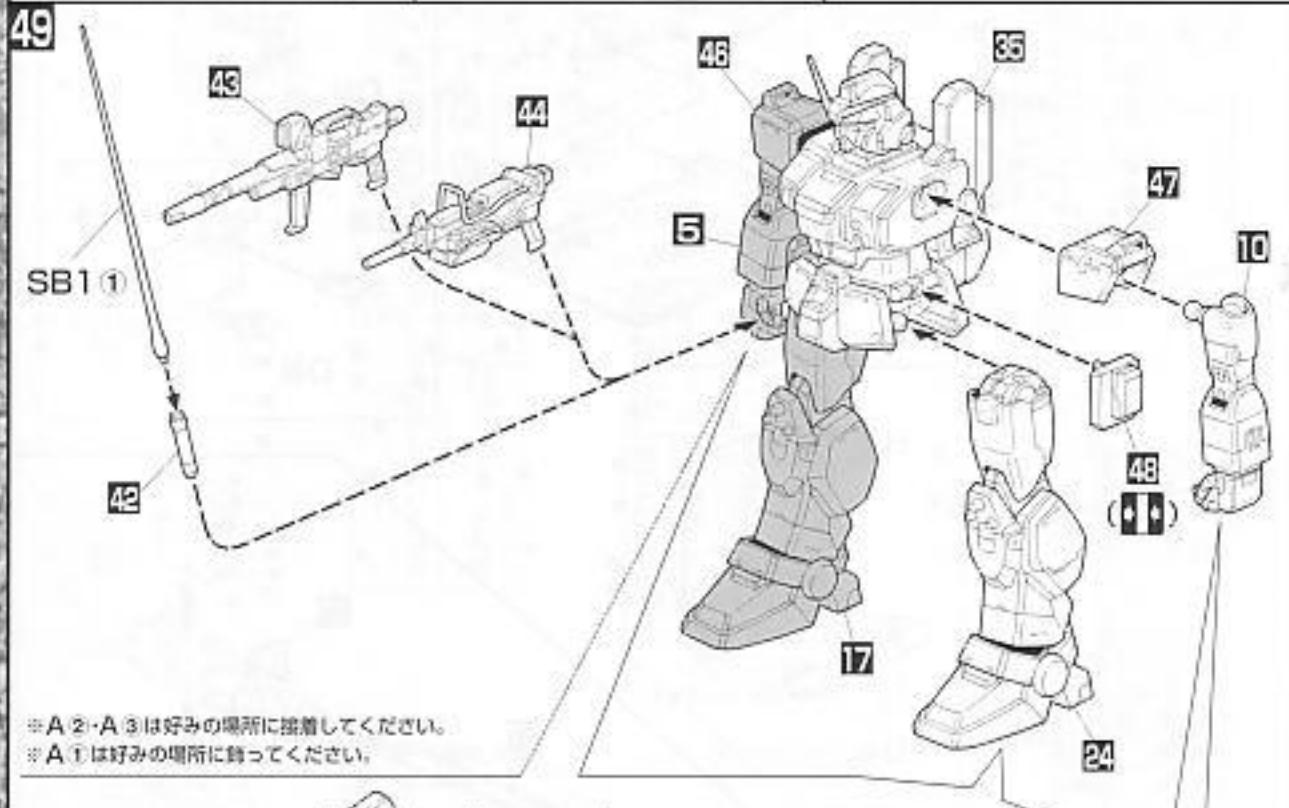
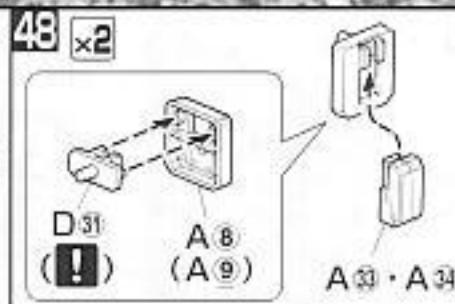
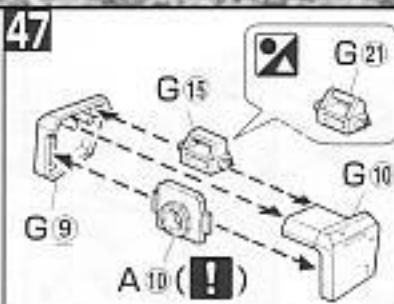
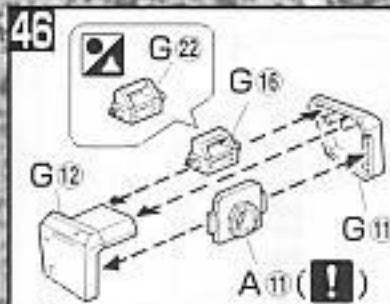
34

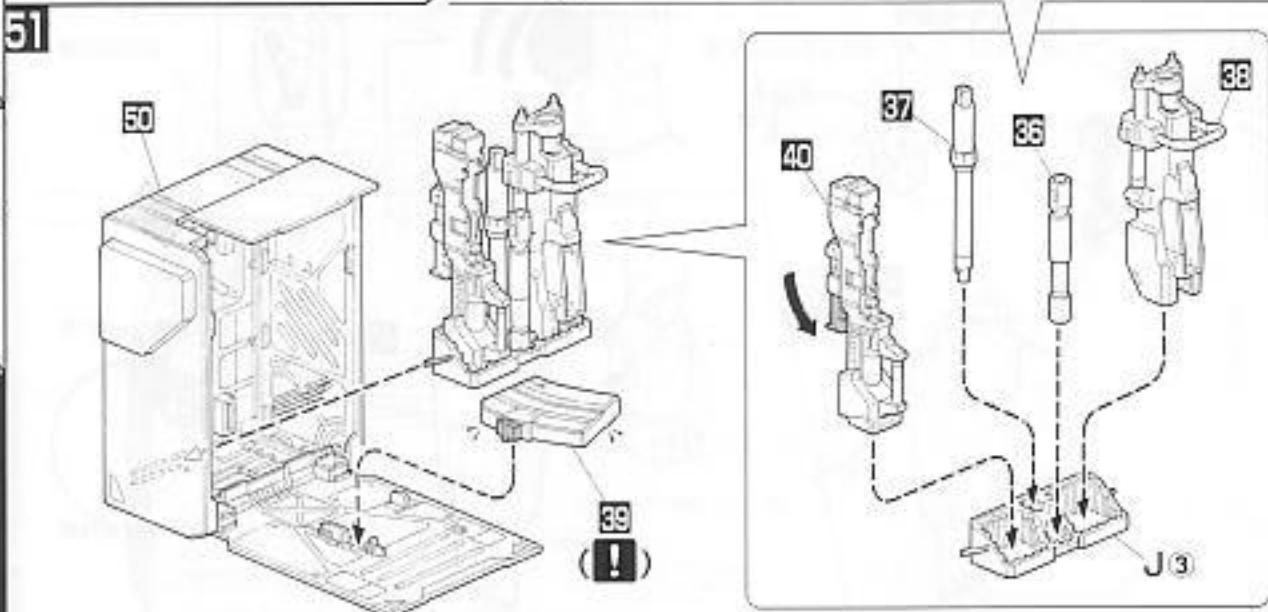
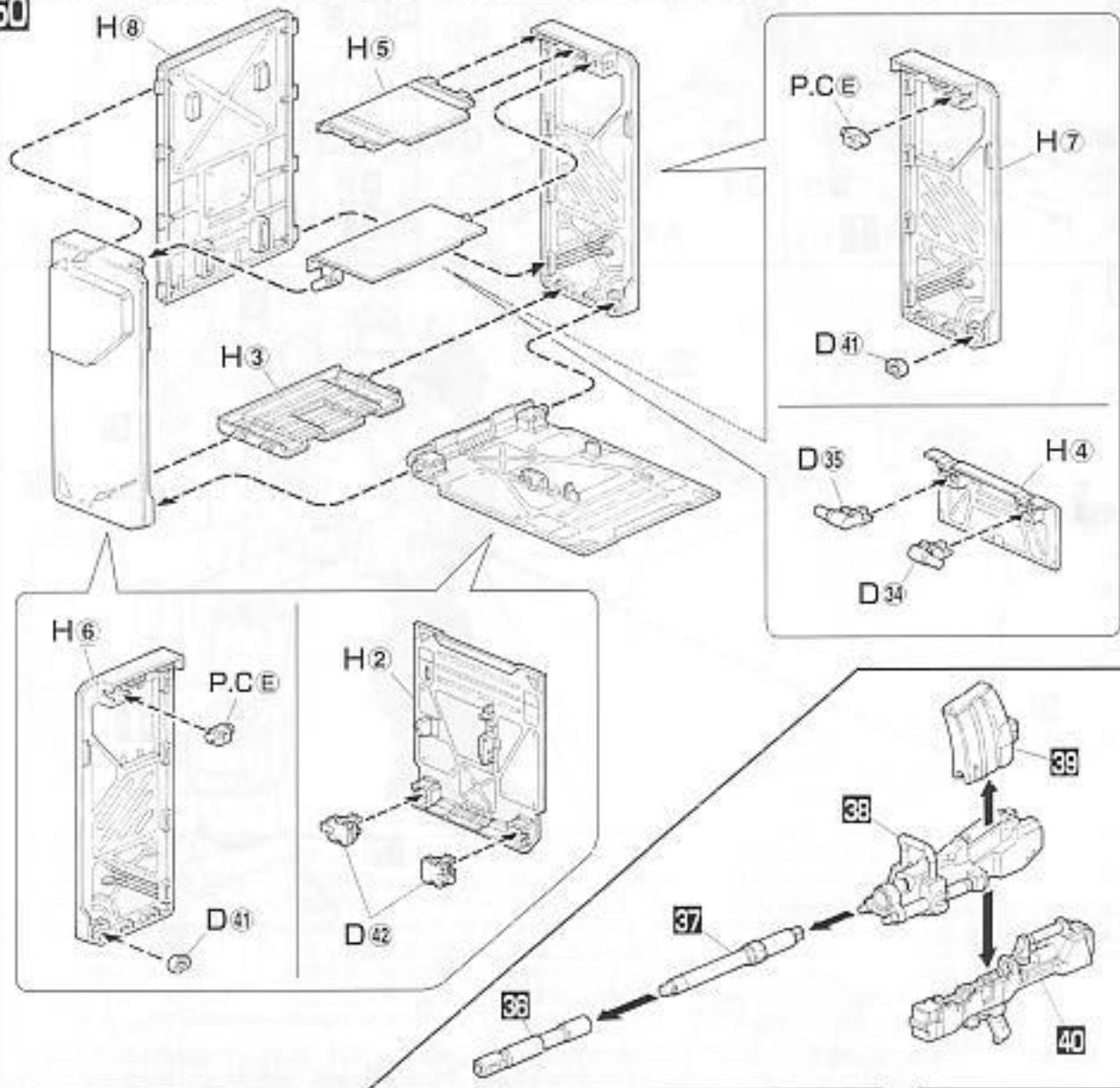


35

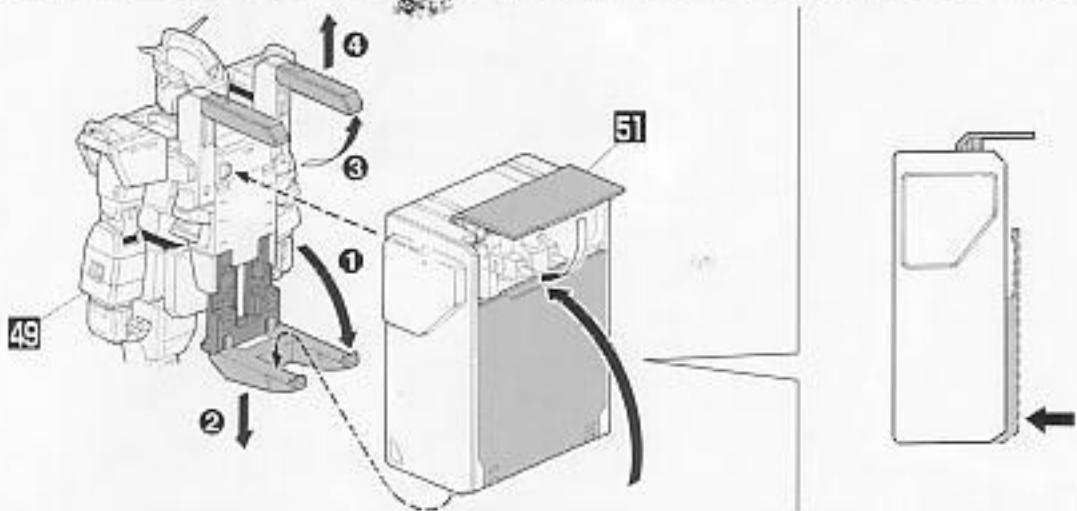








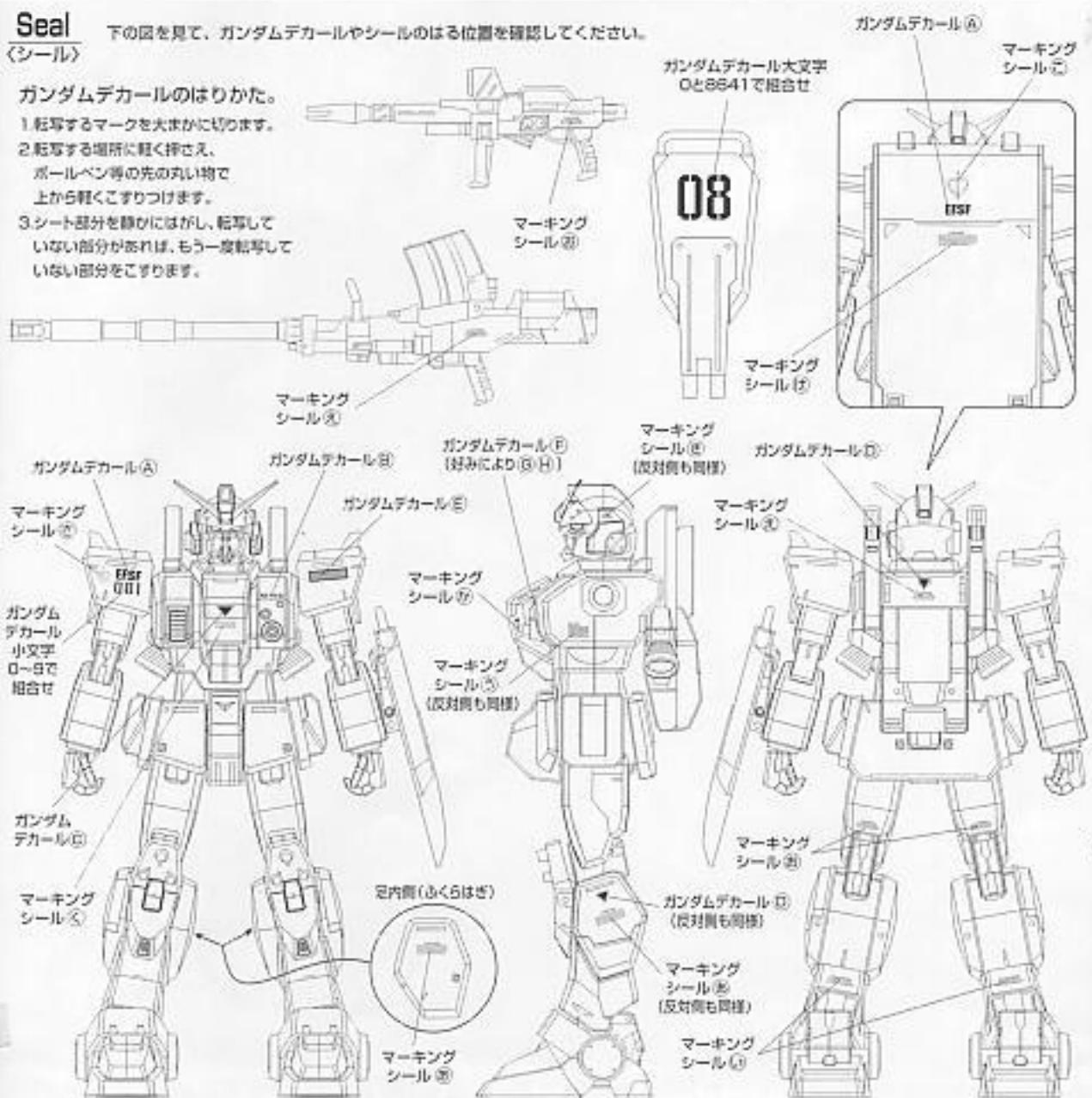
52

**Seal**

〈シール〉

ガンダムデカールのはりかた。

- 転写するマークを大きめに切ります。
- 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
- シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力：ホビージャパン



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ
RX-79(G)「陸戦型ガンダム」
1/100スケールマ

GUNDAM RX-79(G)
Scanned by Dalong.net PRODUCTION MOBILE SUIT